

新校舎の設計について

1 基本設計の検討状況

(1) 交流の促進

- ・回遊性を持たせ、周囲を広く見渡せる空間を創り出すことにより、子どもたちの動きに広がりを持たせる。
- ・特別教室棟として東西2棟を設置し、その間に木造の大屋根を架けて昇降口、図書室（メディアセンター）を吹き抜けの大空間とするとともに、2階には吹き抜け空間を四方から囲むように通路を設置することで、子どもたちの交流を創出する。

※赤色の実線が児童生徒の動線

(2) 安全性の向上

- ・2階建てになることで、通路で校舎どうしがつながり、避難経路が増え、屋外への移動もより短時間となる。

(3) 京北らしさという観点

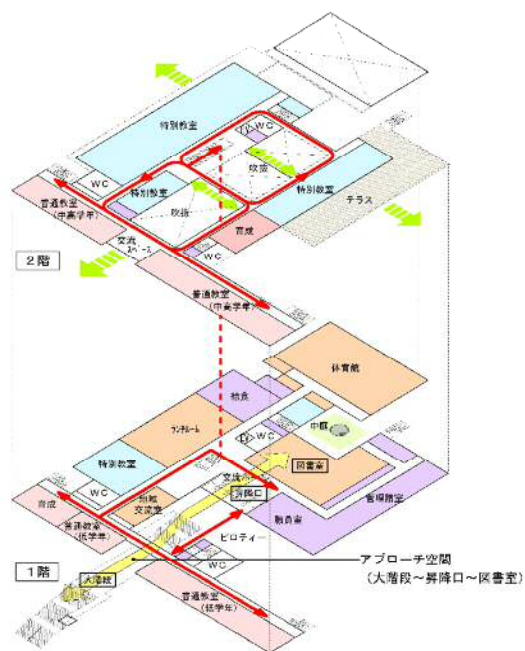
- ・木造の大屋根の現しなど、京北らしい木のシンボル空間を創り出すことができる。
- ・屋根の木造化部分を増やし、建物を鉄筋コンクリート造・一部木造（屋根）の混構造とすることで、「堅牢さ」とともに「木」のぬくもりが実感できる校舎とする。

(4) 正面玄関のシンボル性を強調

- ・大階段を上っていくアプローチエリアに時計台を設置し、シンボルとしての特徴をより際立たせる効果を備える。

2 外観イメージについて

- ・昇降口に吹き抜けの大空間を設けることで、学校正面の大階段からのアプローチエリアのシンボル性を高める。
- ・毎日登下校する子どもたちをはじめ多くの方が行き交う学校前広場については、エレベータシャフトを活用して校名板の掲示や時計台とすることで、吹き抜け空間につながる大階段付近から見た校舎の南側玄関口のシンボル性も高める。



〔平面計画図〕



〔校舎正面アプローチ空間イメージ図〕



〔敷地南西からの鳥瞰図〕



〔ウッディー京北前交差点付近から見た外観イメージ図〕

「4 小中学校 P T A 会長・ 3 保育所保護者会長会」



「4 小中学校 P T A ・ 3 保育所保護者代表者会」

【検討課題】

- 中学生の給食実施方法
- 通学服（標準服）の在り方



第1回会長会(29年4月26日)



第5回代表者会(29年10月16日)

1 中学生の給食の実施方法

自校調理方式による全員給食実施

(全学年)が望ましい



【小中学校・保育所全保護者に意見募集】

「全学年で自校調理方式」 120家庭

「中学ミルク給食(家庭弁当持参)」 4家庭

「家庭弁当と業者弁当給食の選択制」 3家庭



＜主な意見＞

- ・ 学校で調理する給食であれば栄養が偏らずに良いと思う。
- ・ 栄養士によって考えられた栄養満点で温かい自校調理が可能ならば、安心安全な給食を中学生も食べたいと思う。
- ・ 京北産の野菜・米も取り入れてほしい。
- ・ なごみ給食や京北の食材や調理法など、現在の取組はとても良い。一貫校でもぜひ続けて頂きたい。
- ・ 9学年みんなで給食、それぞれの学年に合った量で食べることは良い。
- ・ 自校調理方式を選択するが、家庭弁当持参も対応可能にすべき。
- ・ 中学ともなれば、子どもによって食べる量も様々だと思うので、弁当にしてほしい。

2 通学服(標準服)の在り方

セカンドステージ(5年生)から着用



(イメージ)

- ・ 男女ともブレザースタイル
- ・ 女子はスカート、キュロット、ズボンの選択可
- ・ シャツはカッターシャツ。セーター、ベストとともに推奨品（市販の同等品可）

【着用学年等に係るアンケート結果】

「全学年で着用」 39家庭

「セカンドステージ(5年生)から着用」 95家庭

「全学年私服」 18家庭



＜主な意見＞

「全学年で着用」

- 私服を選ぶ時間が減り、学校全体の統一感が生まれる。
- 1年生から4年生までは、動きやすく洗濯しやすい素材のもので、なるべく安価なものが良い。5年生からは、現中学生が着用しているような通学服の着用が望ましい。
- 小学校低学年と高学年以上で多少変わっても良いと思うが、全員で揃えている方が一貫校として好ましく思う。
- 施設一体型小中一貫校なので、各ステージに似合ったアイテムを存分に活かし、9年間のトータルで経済的な負担軽減になるものを着用できたらと思う。

「セカンドステージ(5年生)から着用」

- 低学年は遊んで汚すと思うので1年生からの制服は不要。
- 1年生からの着用は経済的負担が大きい。
- 5～7年生はかっちりしたものではなく、ポロシャツや半ズボン等着替えやすく動きやすいものが良い。分割払いやリサイクルシステムを導入してほしい。
- 上級生になれば制服が着られるという憧れにもなり、気持ちの切り替えにもなると思う。
- 低学年から高学年に向かう意識づけとしても、セカンドステージからの着用がちょうど良いのでは。女子でもズボンやキュロットを選べるようにしてほしい。

「着用しない(全学年私服)」

- 学校として統一するのに途中から制服とか不自然で、制服に関するコストよりも9年間私服が良い。
- 一人ひとり違うところから良さを見つけ尊重し合えるそんな子ども達に育ててほしいと本当に思っている。統一感や連帯感は服をそろえることで生まれるのでしょうか。
- 教育構想の中では、グローバルな視点からの教育を目指すとしているにもかかわらず、海外では制服の着用は子どもの多様性を損なうという視点から導入していない国が多い。さらに最低限、子ども自身による議論を経る。なければ議論をする仕組みをつくるというのがグローバルスタンダードである。

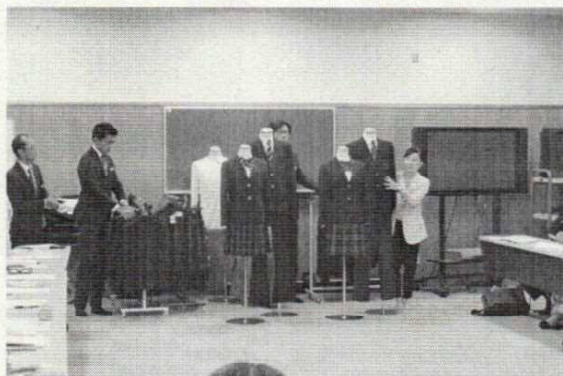
『通学服（標準服）の取扱業者選定』

メーカー4社によるプレゼンテーション

⇒ 「株式会社トンボ」を選定



■ 基本スタイルに基づいた試作品の説明



■ 多くの試作品の中から3種類を選定

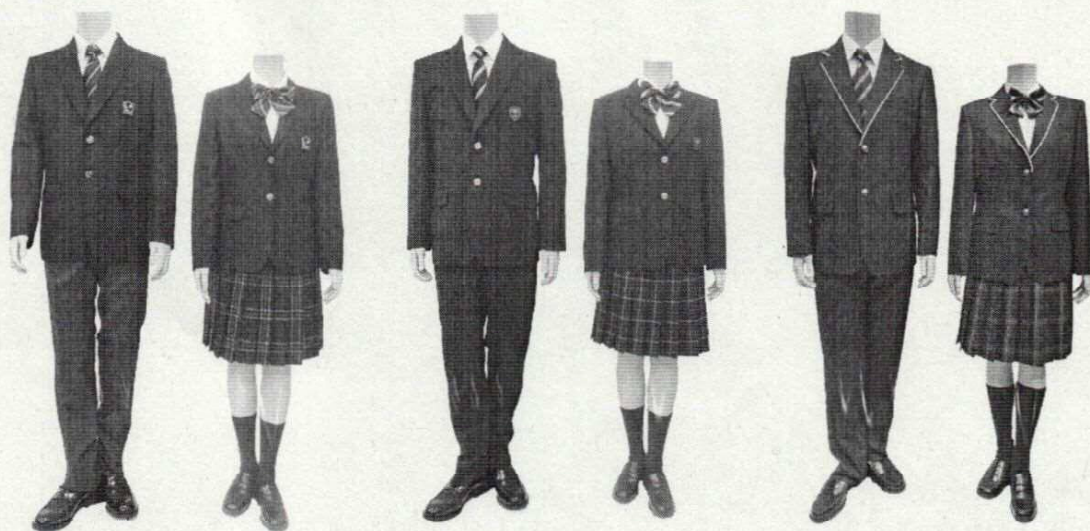


『新通学服（標準服）の選定』

各小中学校・保育所巡回展示・アンケートを実施します。

期間：11月9日（木）～22日（水）

対象：保護者，5・6年生児童及び中学生



※ 最終的には，京北地域小中校長会で方針決定（京北地域小中一貫教育校検討協議会へ報告）